



# アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを 活用した多面的アプローチ

～社会的孤立・排除を生まない総合的な支援体制の確立に向けて～

---

## アウトリーチを用いることによって明らかとなった 社会的に孤立する子ども・若者の実態

～急激な社会変化と背景要因の複雑化・深刻化がもたらす「従来型」支援の限界と対策の困難性～

# 孤立化・深刻化しているケースは従来型のカウンセリングのみの対応では解決が難しい

～学校や職場、家庭等所属する環境の問題に直接アプローチする専門的手段の必要性～

## 佐賀県子ども・若者総合相談センターにおける実態調査

<対象者年齢別内訳>

0～9歳	10～19歳	20～29歳	30歳以上	不詳	合計
123	1,339	573	327	36	2,398

※H22.4～H29.3新規対象者合計

<実態調査対象者>

H22～H28年度「佐賀県子ども・若者総合相談センター」利用者2,398名

※割合には十分な情報が得られなかった者167名を除き算出

H22年度～H28年度	項目	あり	割合
配慮すべき疾患 および障害	1 精神疾患(疑い含む)	986	44.2%
	2 発達障害(疑い含む)	975	43.7%
行動面の問題	3 暴力	404	18.1%
	4 非行・違法犯罪行為	253	11.3%
	5 依存(携帯、インターネット、ゲーム、異性等)	640	28.7%
支援経験	6 医療機関受診	785	35.2%
支援機関を利用するに あたっての困難	7 多重の問題	1,890	84.7%
	8 対人関係の問題	1,879	84.2%
家庭環境	9 家族問題(家族の精神疾患、DV、ギャンブル依存等)	1,421	63.7%
	10 虐待(疑い、過去の経験含む)	308	13.8%
	11 被支援困難者 (経済的事由で必要な支援が受けられない)	424	19.0%
対象者実数		2,231名	

## 支援の際留意すべき点

84.2%を超える子ども・若者が対人  
関係に問題を抱えている

28.7%の子ども・若者で何かしらの  
依存行動が認められる

4割を超えるケースで精神疾患、発達  
障害等特段の配慮を必要とする

虐待、DV、保護者の精神疾患、ギャン  
ブル依存、貧困等生育環境の問題

63.7%で家族自身も悩みを抱え疲弊  
するなどして支援を必要としている

多重に困難を抱える子ども・若者が  
84.7%と高い割合を占める

従来型のカウンセリングによる本人支援のみでは効果が見込めないケースも多い

多重に困難を抱える子ども・若者の支援には「環境」に対するアプローチも重要



 **アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを  
活用した多面的アプローチ**

～社会的孤立・排除を生まない総合的な支援体制の確立に向けて～

**S.S.F.が多様な主体との「協働」で実践した組織づくり**

**従来型の取組の限界を真摯に受け止め  
実態に即した組織体制を整えることが極めて重要**

～S.S.F.が「官民協働」で実現している従来の枠組を超えた分野横断的な組織づくり～



# 深刻化・複合化する問題に対処するためには複数分野の専門職によるチーム対応が原則

～若年無業者の職業的自立を達成するためには本人支援のみならず背景要因を含む包括的な支援が必要～

## 経験と実績を有する複数分野の専門職によるチーム対応



産業カウンセラー



臨床心理士



社会福祉士



教員免許

キャリア・コンサルタント

精神保健福祉士

支援コーディネーター

【登録スタッフの保有資格】 **キャリア・コンサルタント**、**臨床心理士**、**社会福祉士**、**産業カウンセラー**、**学校心理士**、**小学校教諭**、**中学校教諭**、**高等学校教諭**、**特別支援学校教諭**、**幼稚園教諭**、**保育士**、**職業訓練校指導員免許**、**理学療法士**、**心理相談員**、**精神保健福祉士**、**SSF支援コーディネーター**、**薬剤師**、**医師**、**看護師**、**LD教育士**等 【年齢】20代～70代の各世代を雇用：関係性の重視と世代間の連携 ※赤字は常勤配置

## 「シフト制」の採用による多様な組み合わせ：効果的かつ効率的な運営

### 東部地区サポステ

#### サポステ相談支援事業

- ① 総括コーディネーター (月12日) 1名
- ② 相談支援員 (月15日) 1名
- ③ 情報管理員/キャリアコンサルタント (月14日) 1名
- ④ キャリアコンサルタント (月14日) 1名
- ⑤ キャリアコンサルタント (年94日) 1名
- ⑥ チャレンジ体験コーディネーター (月2日) 1名
- ⑦ チャレンジ体験コーディネーター (月20日) 1名
- ⑧ チャレンジ体験コーディネーター (月12日) 1名
- ⑨ チャレンジ体験コーディネーター (月5日) 1名

#### ステップアップ事業

- ① ステップアップ支援員 (月10日) 1名
- ② ステップアップ支援員 (月12日) 1名
- ③ ステップアップ支援員 (月12日) 1名
- ④ ステップアップ支援員 (月14日) 1名
- ⑤ ステップアップ支援員 (月10日) 1名

※原則として日単位の区分(重複無)  
※これと別に、県負担臨床心理士月18時間有り(予定)  
※事務員などは除く

シフト制

多様なマッチング

### 西部地区サポステ

#### サポステ相談支援事業

- ① 総括コーディネーター (月20日) 1名

#### ステップアップ事業

- ① ステップアップ支援員 (年114日) 1名

支援対象となる当事者個々人の状態、その時々々の状況に応じた適切な相談対応を実施するため、人員体制面においても限られた条件の中で最大限の工夫を重ねる！利用者にとって最も合った相談員が対応できるように配慮！

※図は平成27年度のサポステの人員体制で関連事業は含まない  
※他の相談窓口ともシフトを組み合わせることで多様なマッチングが可能

個別担当者制とチーム対応の併用：「より多く」の若者に「より深く」関与することが可能



# 支援に抵抗感を持つ当事者への対応には関係性を重視し世代的条件も考慮

～S.S.F.の支援介入困難度による役割分担と世代的条件を加味した関係性重視のマッチング～

## 「若年者向けキャリア・コンサルティング研究会作業部会」 アウトリーチの4分類

①【機関誘導型】(短期誘導型)  
若者自立支援機関に誘導するための家庭へのアプローチ

②【関与継続型】(長期主導型)  
直接的自立支援を行うための家庭へのアプローチ

③【機関連携型】  
若者と接触するための関係機関へのアプローチ

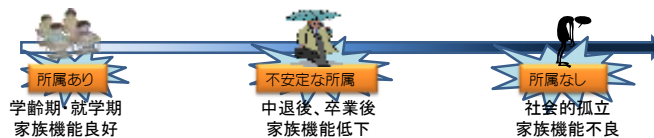
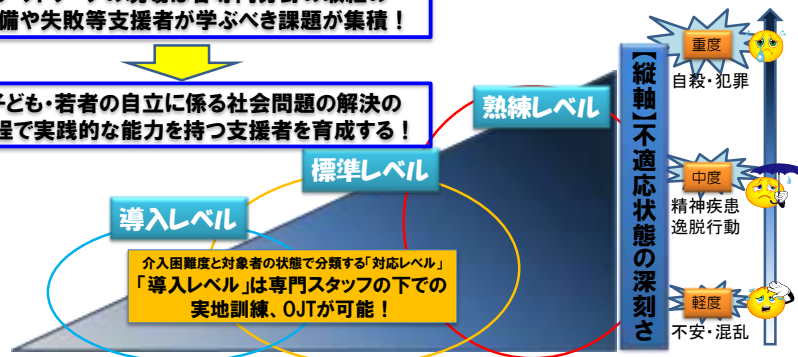
④【直接接触型】  
若者と接触するための若者の集まる居場所へのアプローチ

ちょっとした不安を抱える子どもまで専門家が対応するのは非効率！人材育成も兼ねて若い世代を活用すべき！

## 「支援介入困難度(レベル)に基づいた役割分担」 世代的条件をも加味した対応を可能とするS.S.F.の体制

アウトリーチの現場は各専門分野の取組の不備や失敗等支援者が学ぶべき課題が集積！

子ども・若者の自立に係る社会問題の解決の過程で実践的な能力を持つ支援者を育成する！



熟練レベル

各事業の相談責任者レベル

支援介入困難度等による役割分担と  
複数の専門職によるチーム対応

標準レベル

「選抜研修制度」を経て採用された職員(常勤・非常勤)

約250名の登録スタッフ、有給職員77名のうち7割近くが20代、30代！「ナナメの関係性」を重視する一方で役割分担によって世代間の連携も！

導入レベル

地域ボランティア及び有償ボランティア(大学生、大学院生、地域人材等)

徹底した危機管理の下、関係性を重視した  
「お兄さん」「お姉さん」的支援員(ナナメの関係性)の活用



# アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを 活用した多面的アプローチ

～社会的孤立・排除を生まない総合的な支援体制の確立に向けて～

---

## 一組織で解決できない問題へ対応するため 地域ボランティアから全国規模のネットワークまで 支援ネットワークを重層的に構成

～どんな境遇の子ども・若者も見捨てない！深刻化かつ複雑化する背景要因への対応～







# S.S.F.が各協議会等においてハブ機能を果たすことで横断的かつ実働的な協議会・ケース会議を運営

～「ひきこもり」支援策の充実に向けてより多くの関係機関を協力を得るため双方の協議会等構成機関に呼びかけ必要に応じて拡大～

## 佐賀県子ども・若者支援地域協議会 《事務局》県こども未来課

### 《雇用》

佐賀労働局職業安定部職業安定課(ハローワーク主務課)  
ジョブカフェSAGA(佐賀県若年者就職支援センター)  
佐賀県立産業技術学院  
佐賀県産業労働部産業人材課  
さが若者サポートステーション  
たけお若者サポートステーション

### 《保健、福祉、医療》

佐賀県中央児童相談所  
佐賀県精神保健福祉センター  
佐賀県健康福祉部福祉課  
佐賀県健康福祉部障害福祉課  
佐賀県健康福祉部男女参画・こども局こども未来課  
佐賀県健康福祉部男女参画・こども局こども家庭課  
佐賀県東部発達障害者支援センター 結  
独立行政法人 国立病院機構肥前精神医療センター  
臨床心理士相談センター(西九州大学)

### 《教育》

佐賀県法務私学課(私立学校主務課)  
佐賀県教育庁学校教育課(県立学校主務課)  
佐賀県県民環境部まなび課  
(公民館、少年自然の家、県立生涯学習センター主務課)

### 【市町教育委員会】

### 《矯正、更生保護等》

佐賀少年鑑別所(さが法務少年支援センター)  
少年サポートセンター  
(佐賀県警察本部生活安全部人身安全・少年課)

### 《その他》

親の会「ほっとケーキ」  
特定非営利活動法人 それいゆ

特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス

## 分野・施策等の壁を超え 集約化・合理化された 「ケース会議」

※新制度における「支援会議」に相当  
※現場の負担軽減のための合理化  
※電話会議・ICTの利活用による効率化



## 佐賀県ひきこもり対策連絡協議会 《事務局》NPOスチューデント・サポート・フェイス(県障害福祉課委託)

### 《関係団体》

佐賀県自閉症協会 親の会  
(NPO法人それいゆ)  
より添いとたい話の診療所  
佐賀県臨床心理士会  
佐賀県社会福祉協議会

NPOスチューデント・サポート・フェイス

## 佐賀県生活困窮者自立支援連絡会議 《事務局》県福祉課

### 《国》

佐賀労働局  
佐賀保護観察所

### 《県》

地域交流部 国際課  
県民環境部 暮らしの安全安心課  
健康福祉部 福祉課  
健康福祉部 障害福祉課  
健康福祉部 長寿社会課  
男女参画・こども局 男女参画・女性の活躍推進課  
男女参画・こども局 こども未来課  
男女参画・こども局 こども家庭課  
教育庁 教育総務課  
教育庁 学校教育課

### 《関係団体》

佐賀県弁護士会  
日本司法支援センター佐賀地方事務所(法テラス佐賀)  
佐賀県司法書士会  
佐賀県母子寡婦福祉連合会  
佐賀県社会福祉協議会  
佐賀県社会福祉士会  
佐賀県民生委員・児童委員協議会  
佐賀県労働者福祉協議会  
佐賀県DV総合対策センター  
佐賀県国際交流協会

特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス

〔「ひきこもり地域支援センター」受託団体として参加定〕

S.S.F.の徹底した公益重視の方針！精神科医による月例のケース検討会議、スーパーバージョンも他団体に無償で開放！立場を越えてみんなで支援の質を向上させることを重視！

※佐賀市に関してはS.S.F.は要保護児童対策地域協議会にも構成機関として参画！

### 《行政機関》

健康福祉部障害福祉課  
健康福祉部福祉課  
健康福祉部長寿社会課  
男女参画・こども局 こども未来課  
教育庁 学校教育課  
佐賀労働局  
佐賀県精神保健福祉センター  
佐賀中部保健福祉事務所

### 《生活困窮者自立支援制度受託・運営》

佐賀県社会福祉士会  
唐津市社会福祉協議会  
多久市社会福祉協議会  
伊万里市社会福祉協議会  
武雄市社会福祉協議会  
鹿島市社会福祉協議会  
小城市社会福祉協議会  
嬉野市社会福祉協議会  
鳥栖市社会福祉課  
グリーンコープ生活協同組合さが

各協議会にS.S.F.が参画することで「ハブ機能」が生まれ合同研修会や会議等の開催が可能に！